

江戸川区立松江小学校
校長 大須賀 慎一

どきどきわくわくする教育活動を目指して

～チーム松江で取り組む「あなたもわたしも大切な一人」～

本校では、「㊦なぶ子（学力向上）」「㊧よい子（体力向上）」「㊨がお（健全育成）」「㊩show（開かれた学校）」を基本とし、「生きる力」を育む教育の達成のために、心身ともに健康で知性と感性に富み、身近な地域を愛する心、地域に貢献する心と国際感覚をもった児童の育成を目指し、教育活動を展開している。

令和8年度に開校150周年を迎えることを誇りにもち、これまでの歴史と伝統を受け継ぎながら、未来を目指す松江小学校として、日々の学校生活において多くのよき学びができるよう、教育活動の柱を「どきどきわくわくする教育活動」とする。そして、児童一人一人が「できた」「分かった」の喜びを十分実感し、自分のよさを認め、他人を思いやる心をもった「あなたもわたしも大切な一人」を目指した学校を創っていく。

1 児童育成の基本的な考え方

(1) 一人一人を大切にした教育の推進

すべての教職員、児童が人権尊重の理念を正しく理解し、互いの人格を尊重し合う教育活動を行う。そのためには、次の点に取り組む。

- ① 児童の呼称を「さん、くん」で行い、一人一人の人格を尊重する。
- ② 毎朝、一人一人の呼名を行い、児童の健康状況や様子を十分に観察する。
- ③ 児童の言動等に対して肯定的な言葉掛けを行い、共感的で見通しのもてる指導を行う。
- ④ 児童が授業において発言するときは、「はい、立つ、です。」を基本とし、自分の思いや考えを堂々と話せる子供を育てる。

(2) 認め、励まし、自信をもたせる教育の推進

児童一人一人が「今日の日も、楽しかった。」「明日の学校が楽しみだ。」と思えるよう、困難なことにくじけず、自信と意欲をもって生きていくためのたくましさを根付かせたい。そのためには、次の点に取り組む。

- ① 教師や友達から、認められる場や褒められる場を多く設定する。自分のよさを自ら認識する機会を設定し、自分に対する自信をもたせる指導を行う。
- ② 「わかった」「できた」という達成感や、成功体験を一人一人に実感させる。困難な課題にチャレンジして失敗した場合は、その子の心に優しく寄り添う支援でリカバリーする。
- ③ 特別な配慮を要する児童や、特別支援学級（わかば学級）の児童に対して、児童の側に立って寄り添い、自信をもたせ、明るく学校生活を過ごせるよう指導を行う。

2 「㊦なぶ子」（確かな学力の定着を目指して）

児童一人一人に確かな学力を身に付けさせるとともに、主体的・対話的な学習を目指した授業改善を行うために、次の点に取り組む。

- (1) 45分間（1単位時間）を大切にす授業
- (2) できたことをほめ、できないことに手を差し伸べる授業

- (3) ねらいを明確にし、児童自身が評価できる授業
- (4) 主体的・対話的な学びを目指した授業
- (5) 創意工夫を図った、児童にとって学びの多い授業
- (6) 学力向上を目指した、児童自らが解決できる授業

3 「◎よい子」(心身ともに健康な体を育むことを目指して)

児童一人一人が心身ともに健康であることを目指すとともに、体力向上とレガシーを創造する教育を推進するために、次の点に取り組む。

- (1) 健康な体を育むための日常的な取組
- (2) 体育の授業の充実
- (3) 「江戸川っ子なわとびチャレンジウイーク」の効果的な活用
- (4) アスリートやスポーツとの出会い

4 「㊦がお」(豊かな心と人を大切にする心を育むことを目指して)

- (1) あいさつと笑顔のあふれる学校
- (2) 言語環境を整えた学校
- (3) 自分の思いを言葉に出せる学校
- (4) 人と関わり奉仕する心を育む学校
- (5) 感性を豊かに育てる学校
- (6) 歌や音楽などに触れ合える学校
- (7) 道徳の時間を大切にする学校
- (8) 地域を愛する心をもつ学校

5 ㊦show(開かれた学校を目指して)

- (1) 開校150周年を迎えることへの矜持
- (2) アフター&ウィズコロナウイルス対応

6 教師の働き方改革を目指して

教師自身が、これまでの職務や取組を振り返り、児童にとって必要な教育を目指し、次の点に取り組む。

- (1) 費用対効果を考えた教育活動
- (2) スクラップアンドビルド
- (3) ワークライフバランス
- (4) 教育公務員としての自覚

7 生命の尊さ「命」の重みを改めて考える

本校の教育の柱である「あなたもわたしも大切な一人」は、一人一人の生命を尊重する教育である。昨今の、自然災害の脅威、生命を脅かす様々な事象、そして新型コロナウイルスをはじめとする感染症対応など、改めて「命」の重みを考える日々となっている。すべての「命」の重みを実感し、生命の尊さを考える機会を多く設定する。

- (1) 防災教育の推進
- (2) SDGsの推進